

ひじかわばし 大正時代の肱川橋橋脚を市民に一般公開しました

当事務所で事業を進めている肱川橋橋梁架替において、取壊し中の橋脚の中から大正期に造られたレンガ造りの橋脚が現れたことから、工事現場を一般公開しました。

■日時：平成29年 3月 5日（日）10：00～14：00

■場所：肱川橋撤去工事現場

初代肱川橋は1913年（大正2年）に完成。現在は、耐震面の問題等から取壊し工事を進めています。取壊し中の橋脚の内部には、初代レンガ造りの橋脚が存在しており、慎重に鉄筋コンクリートを取り壊した結果、ほぼ建設当時のままのレンガ造りを浮かび上がらせることが出来ました。

当日は、10時からの公開としていましたが、待ちきれない方達がカメラを片手に9時過ぎには来場し、興味の高さが伺えました。会場には、年配のご夫婦から若い家族連れ、児童等幅広い年齢層の方約200名が来場し、中には建築関係の方や、赤煉瓦館のスタッフ、学校の先生等も見受けられ、当時の技術の高さに感心したり、レンガの橋脚をバックに記念撮影を行っていました。来場した方からは『取り壊すのはもったいない』などの感想があり、古い建造物や建設現場に興味を持ってもらうことが出来ました。

今回の現場見学会では、肱川橋への想いや愛着を感じていただきました。今後も建設産業の担い手確保の一環として、継続した現場見学会を開催していきたいと考えています。

なお、今回撤去するレンガは、記録保存を予定しています。また、他の橋脚についても、地元の方の想いに寄り添えるような保存方法を大洲市と協議していきます。

